９君は月夜に光り輝く ＋Fragments（佐野徹夜）

―難病におかされ、余命ゼロを宣告された高校生の「私」は、「死ぬまでにしたいこと」を書き出すことにした。そんな「私」の病室に、同級生の「くん」が見舞いに来てくれる。……

こんなくだらないことでいいんだろうか、と自分が書いたのに思った。でも、いくら考えても、本質的な欲求は（　Ａ　）意識の表に出てこない。私は本当は何がしたいんだろう？　自分が本当にしたいことを明確に把握している人間なんて、一体何人いるんだろう？

・お父さんに会いたい

二人が離婚してから、お父さんとは一度も［　Ⅰ　］を合わせてない。そこまで書いて、（　Ｂ　）気がついた。どうしたって、私にこの死ぬまでにしたいことのリストを実行することは、不可能だ。なぜなら、私は病室の外に出ることができないからだ。なんでそんなことに気がつかなかったんだろう。書いても無駄だ。そう気づいて、ペンを止めた。

でもまぁいい。こんなことに真剣になってもしょうがない。実現するかどうかが重要じゃないのだ。自分の中の欲求を、生きることへの執着を、把握することが大事なのだ、そう考え直した。全部書きだして、一つ一つ、①殺していこう。自分の中の気持ちを。（　Ｃ　）、ペンを走らせる。

「それ、僕に手伝わせてくれないか。」

卓也くんは、②そんな作業の最中に、また私の病室にやって来た。この人、暇なんだろうか、と冷めた心で思う。もうすぐ死ぬ私みたいな人間にかかわって、一体何のメリットがあるんだろう？　彼の顔は妙に無表情で、みどころがない。何を考えてるのかわからなかった。私に興味があるとしたら、それは何が理由なのだろう。心の中で、仮説を立てる。これから死ぬ人間に、興味があるから。それならそれでいいじゃないか、と私は思った。別に、不愉快には感じなかった。

「罪滅ぼしさせてほしいんだ。ノードーム、割ったことの。取り返しのつかないことをしたと思ってる。でも、ごめん、って言葉で謝るだけじゃ、なんか足りない気がして。薄っペらい、気がして。うまく言えないんだけど……なんでもいい。できることならなんでもするから。」

そう言われて、私は、思いつく。私のかわりに、卓也くんに、死ぬまでにしたいことリストを実行してもらうというアイデアを。宙ぶらりんの毎日を、死刑執行の知らせを待つ死刑囚みたいな気分で過ごすことに、私は（　Ｄ　）、飽きていた。死ぬことへの恐怖を減らすために、私は可能性を捨てたかった。

人は、過去だけではなく、［　Ⅱ　］にもわれて生きている。［　Ⅱ　］を全て捨てることができれば、私は（　Ｅ　）、心穏やかに死んでいけるはずだ。それで私は、③卓也くんにお願いをすることにした。

＊語注

＊スノードーム…ドーム型の透明な容器の中を液体で満たし、人形などを入れた置物。

問１　（　）Ａ～Ｅに入ることばをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。（同じことばは二度使わない。）

ア　もう　　　イ　ふと　　ウ　なかなか　　エ　きっと　　オ　再び

Ａ＝（　　　）　　Ｂ＝（　　　）　　Ｃ＝（　　　）

Ｄ＝（　　　）　　Ｅ＝（　　　）

問２　［　］Ⅰに入ることばとして、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　顔　　イ　目　　ウ　口

問３　――線部①とは、具体的にどうすることか。簡潔に記せ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　――線部②はどんな「作業」か。具体的に記せ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　〕

問５　［　］Ⅱに共通して入ることばを文中から抜き出して答えよ。

〔　　　　　　　　　〕

問６　――線部③について、何を「お願い」するのかが書かれている一文を文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。

〔　　 　 　　　〕

【解答】

問１　Ａ＝ウ　Ｂ＝イ　Ｃ＝オ　Ｄ＝ア　Ｅ＝エ

問２　ア

問３（例）断念して（諦めて）いくこと。

問４（例）自分の中の欲求を、全部書きだす作業。（死ぬまでにしたいことリストを作る作業。）

問５　可能性

問６　私のかわり

ポイント

問２　「顔を合わせる」は、「人と会う」「面と向かい合う」意の慣用句。

問５　可能性があるから、それが失われていく「恐怖」が生まれる。すべての可能性を捨てきってしまえば、恐怖は減り、穏やかに死んでいけると「私」は考えている。